

第4問

〔設問1〕 以下の事実1と2について、X、Yの罪責を論じなさい。

- 1 Xは、友人のYと道路を歩いていたところ、以前から敵対していたAと会い、口論になった。Aが、突然「殺してやる」と叫びながら、Xの顔をめがけて鉄パイプで殴りかかってきたため、XはYに助けを求めた。
XとYは、Aの攻撃からXの身を守るためにはAに怪我をさせても仕方がないと思い、YがAの足をつかんでAの動きを止め、Xが手拳でAの顔を殴打した（第1暴行）。Aは、倒れた際に腕を骨折し、動けなくなった。
- 2 Xは、これを見て、もうAは襲ってこないと思ったものの、Aに対する恐怖心や狼狽から、Aの頭部を蹴った（第2暴行）。Yは、動けなくなったAにXがさらに暴行を加えたことに驚きつつ傍観していた。Aは、第2暴行から生じた外傷性くも膜下出血によって死亡した。

〔設問2〕 上記の事実2が以下の事実3であったとする。この場合のX、Yの罪責を論じなさい。

- 3 Xは、これを見て、「俺に勝てると思ってたのか。俺の力を思い知っただろう」などと叫び、専ら恨みを晴らしたいという気持ちで、Aの頭部を力任せに数回蹴った（第2暴行）。Yは、動けなくなったAにXがさらに暴行を加えたことに驚きつつ傍観していた。Aは、第2暴行から生じた外傷性くも膜下出血によって死亡した。

